

# News Letter

2025  
Summer issue

令和7年8月12日発行

*Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education*



一般社団法人

## 日本体育・スポーツ・健康学会 第75回大会

The 75th Conference of Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences

今改めて問う、**身体（からだ）の科学と文化の価値**  
— 一次世代を切り拓く未来創造 —



2025年  
8月27日(水)～8月29日(金)

〈会場〉  
日本体育大学 東京・世田谷キャンパス



日本体育大学  
Nippon Sport Science University

### 日本体育社会学会

事務局：〒651-2187

兵庫県神戸市西区学園東町 9-1

神戸市外国語大学 常行泰子研究室内

E-mail: [jimukyoku@jssspe.org](mailto:jimukyoku@jssspe.org)

### < 目 次 >

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 会長あいさつ                         | 1  |
| 役員／理事／各種委員会委員等                 | 2  |
| 日本体育社会学会第3回大会報告                | 4  |
| 学会賞受賞者の声                       | 5  |
| 学生研究奨励賞受賞者の声                   | 7  |
| 日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会<br>スケジュール | 8  |
| 『年報体育社会学』編集委員会より               | 10 |
| 事務局より                          | 11 |
| あとがき                           | 19 |

## ＜会長あいさつ＞

日本体育社会学会 会長  
(一社) 日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域 代表  
高峰修 (明治大学)

本学会の2025-26年度会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023-24年度には、松尾前会長と石坂前事務局長をはじめとする事務局担当の会員の方々、そして理事の方々のご支援のもと、理事長としての立場で学会の活動に関わらせていただきました。一部の理事の方々には多大なご負担をおかけしましたが、学会としての様々な制度を整え、3回の学会大会を含む様々な事業を無事行なうことができました。そうした成果の一つに、体育社会学に関する研究のこれまでとこれからをまとめたテキスト『体育社会学の課題と展望』の編集があります。この書籍は、体育・スポーツ・健康科学という学問分野全体から見ると、その一領域である社会学という専門化、細分化された研究領域の知の集積でもあります。

他方、日本体育・スポーツ・健康学会の動向を見てみますと、ご存じのように過去数年間の学会大会プログラムは、応用（領域横断）研究部会が企画するテーマ別企画を中心に構成されるようになりました。こうした動向の背景には、専門化、細分化した研究成果を組み替え直して学際的、統合的な知の構築を目指す、さらにはそうした知を社会に還元するといったねらいがあります。

このように、本学会は日本の体育・スポーツ・健康科学が一方では専門化、細分化し、他方では学際化、統合化するという両ベクトルが交差する磁場において誕生したことになります。

こうした状況における本学会の課題は、大きく分けて二つあるといえるでしょう。一つは、体育社会学としてのアイデンティティの探索です。このアイデンティティには、体育・スポーツ・健康学会分野における体育社会学としてのアイデンティティ、そしてスポーツ社会学との関わりにおける体育社会学としてのアイデンティティの二つの側面があるように思います。

もう一つの課題は、他の専門領域（学会）や実践現場との連携、協働です。現代社会における体育やスポーツをめぐる現象や構造の複雑化、規範や価値観等の変化を認識しつつ、体育やスポーツの研究のみならず「実践に寄与する」という本学会の目的の達成を見据えると、今や社会学という分野を超えて近接し関連する分野、そして学校や地域において体育が実践されている現場との連携や協働は欠かせない状況にあると思われます。

以上のように、体育・スポーツ・健康科学分野の一領域としての本学会は、現在、アイデンティティの探求と他領域や現場との連携・共同という内と外を両極とする軸上にあると考えられます。ここにさらにもう一つの軸を加えるならば、松尾前会長が指摘するように、「実践から課題を引き出し、理論化するなかで、実践を意味づけし、時には実践に生かせる視点を提示する」といった「理論と実践の往還運動」（News Letter 2023 Summer issue, p.1）も欠かせないでしょう。

今後2年間は、本学会が置かれた以上のような状況を念頭に置き、将来を見据えた学会の方向性を見定め、本学会がその方向に一步脚を踏み出すための基礎体力づくりを進めたいと考えています。執行部がイニシアチブをとる“オンラインレクチャーシリーズ”もその一つになると期待していますし、新たに発足した国際交流委員会による海外研究者との交流や海外の研究情報の収集・共有も欠かせません。

会員の皆さまも、若手の研究者のみならず、中堅やベテラン、さらには引退間際といった各キャリアのお立場で、体育社会学の研究と実践に取り組んでいただければ幸いです。今後2年間、そうした取り組みを可能にする環境整備に尽力していきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

## ＜役員／理事／各種委員会委員等＞

### 1) 役員

会長（専門領域代表）：高峰修

副会長：清水諭

理事長：水上博司

監事：有山篤利、前田博子

事務局：

事務局長：常行泰子

事務局次長：稲葉慎太郎

本部連携事務局次長：依田充代

会計：工藤康宏

広報：谷めぐみ

任期：2025年6月22日から2027年6月20日（予定・総会終結日まで）

### 2) 理事（50音順）

全国選出：石坂友司、大沼義彦、清水諭、中澤篤史、原祐一、水上博司

地区選出：

北海道・東北：石澤伸弘、甲斐健人

関東・甲信越：下竹亮志、村本宗太郎、渡正

東京：笹生心太、高橋義雄、依田充代

東海・北陸：伊藤央二、大勝志津穂

近畿：工藤康宏、常行泰子、中山健

中国・四国：白石翔、渡辺泰弘

九州・沖縄：谷口勇一、中山健二郎

会長推薦：高橋豪仁、宮本幸子

任期：2025年6月22日から2027年6月20日（予定・総会終結日まで）

### 3) 委員会委員

研究委員会：◎石坂友司、○白石翔、伊藤央二、小坂美保、高橋義雄、中山健二郎、宮本幸子

編集委員会：◎谷口勇一、○下竹亮志、高橋豪仁、中山健、渡辺泰弘、渡正、常行泰子、石坂友司、甲斐健人

学生研究奨励賞選考委員会：◎甲斐健人、○大勝志津穂、工藤康宏、後藤貴浩、山本理人

広報委員会：◎笹生心太、村本宗太郎、平賀慧

学会大会委員会：◎中澤篤史、依田充代

国際交流委員会：◎石澤伸弘、○大沼義彦、原祐一

学会賞選考委員候補者推薦委員会：高峰修、松尾哲矢、常行泰子、有山篤利、前田博子、理事2名

学会賞選考委員会：◎高橋豪仁、○千葉直樹、北村尚浩、清水諭、原祐一、前田博子、依田充代

◎：委員長、○：副委員長、下線：専門委員

任期：2025年6月22日から2027年6月20日（予定・総会終結日まで）

※学会賞選考委員のみ 2024年9月1日から2027年6月20日（予定・総会終結日まで）

### 4) 日本体育・スポーツ・健康学会 常設委員会委員

会計：依田充代

庶務委員会：石坂友司

学会大会委員会：◎依田充代

企画委員会：水上博司

研究倫理委員会：齋藤健司

政策検討・諮問委員会：◎齋藤健司、水上博司

ダイバーシティ委員会：◎大勝志津穂、石坂友司

指導者資格特別委員会：大勝志津穂

◎：委員長

5) 日本体育・スポーツ・健康学会 委員

学会賞選考委員会：吉田毅

「体育学研究」編集委員会：中澤篤史、高尾将幸、秋吉遼子

「JSHS」編集委員会：山口志郎、野口亜弥

6) 日本体育・スポーツ・健康学会 応用（領域横断）研究部会員（任期2年）

スポーツ文化研究部会：植田俊

学校保健体育研究部会：三上純

競技スポーツ研究部会：溝口紀子

生涯スポーツ研究部会：秋吉遼子

健康福祉研究部会：河西正博

7) 政策検討・諮問委員会委員

伊藤央二、石澤伸弘

8) 若手研究者委員会

白石翔



## ＜日本体育社会学会第3回大会報告＞

### 日本体育社会学会第3回大会 開催報告

甲斐健人（東北大学大学院教育学研究科）

日本体育社会学会第3回大会が6月21、22日、東北大学で開催されました。89名の方々にご参加いただき、仙台にしては陽射しが強い中での開催となりましたが、皆様のおかげで大過なく次にバトンを繋ぐことができたのではないかと思います。改めて感謝申し上げます。皆様にとって仙台での時間が有意義であったことを願っております。

大会開催をお引き受けするにあたって大きな気がかりが3点ありました。こちらの意向だけではどうにもならない実行委員会企画、情報交換会を含めた食事、学会運営に不可欠の補助学生の確保です。実行委員会企画は「体育」概念をより広くとらえることで開ける地平があるのではないかと千松氏に依頼しました。皆様どのように受け止められたでしょうか。食事については、開催時期がキャンパスにある大学生協の改修と重なったこともあってご不便をおかけしましたが、なんとか凌がせていただきました。ご不自由をおかけし申しわけありませんでした。補助学生の確保については、多くの開催校と異なり、ゼミ生に限られる中で大きな不安材料でした。幸い入学直後の1年生も加えて当日を迎えました。学生のなかには「学会」なるものにふれてみたいと思っていた学生もいたようです。学生といろいろな話をする機会を得たことが望外の副産物となりました。

猛暑が続くなか前期も終わろうとしております。仙台でのご縁に感謝しつつ、皆様の益々のご健勝と、本学会のさらなる充実を祈念し、拙文を閉じることといたします。



会場校の東北大学から仙台市中心部を望む



（左から）高峰新会長、松尾前会長、石坂新研究委員長、有山監事

## ＜学会賞受賞者の声＞

学会賞を受賞して

中澤篤史（早稲田大学スポーツ科学学術院）

対象研究

「全国中学校体育大会の成立過程：

中学校体育連盟は教育的平等主義と競技的選抜主義の相克をどう意味づけたのか」

『体育学研究』67巻（2022年）

このたびは、栄えある学会賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。

私は今45歳。研究者人生の折り返し地点にいます。10年一仕事という思いで研究を続けてきました。これまでを振り返り、これからの抱負を述べさせていただきます。

10年一仕事の第一打席は、大学院への“入院”（2002年）からオーバードクター生活を経た学位取得（2012年）まででした。部活を対象に、現状のあり方をフィールドワークから分析し、歴史的背景を探るため戦後史分析に取り組み、博士論文を書きました。博論は本にしたい、という若手にありがちな野望に取り憑かれていたが、そんなものは売れない、と老舗の出版社に断られたりもしました。縁あって青弓社さんに救っていただき、デビュー作『運動部活動の戦後と現在』を上梓したのが2014年。10年一仕事のはずが、世に問う形になるまでは12年かかりました。

その後、多くの研究者を悩ませるポスト博論問題——さて次は何を研究しよう？——に私も直面します。1年ほどぶらぶらして、なぜか友人の経済学者に指導を請うてミクロ経済学のテキスト・問題集を解きまくったことは、今となっては意味不明です。とまれ、その時の有力な研究プロジェクト候補は、リハビリテーション・介護予防・ケアを対象にした、福祉領域での身体を支える思想と実践の探究でした。これは「体育」概念を拡張しながら体育社会学の新フロンティアになるはずで、現在も諦めてはいません。

しかし、先輩研究者に「中澤くんは、もう一回、部活研究でしょ」と背中を押されて、第二打席も部活研究に焦点化する決断をしました。当時、渋谷の岸記念体育会館に所在した日本中学校体育連盟事務局へ突撃したら、事務局のみなさまに温かく受け入れていただき、中体連の足跡を示す“宝の山”に出合ったのが、2015年。そこから紆余曲折を経て、「中学校体育連盟の形成過程（1947-1967）」（2021年『体育学研究』：日本体育・スポーツ・健康学会学会賞／体育社会学専門領域賞）、「全国中学校体育大会の成立過程」（2022年『体育学研究』：このたびの学会賞）、「日本中学校体育連盟の財務分析」（2024年『年報体育社会学』）と、自称・中体連3部作を書きました。

それらの執筆プロセスでは、フォーマルな学会発表の場で、生煮えの論文ドラフトを学会メンバーのみなさまに揉んでいただきました。そしてインフォーマルな研究会で、優れた研究者仲間から数多くの本質的な批判をいただきました。さらに、投稿後の査読プロセスでも、アカデミアの第一線を張る匿名専門家の先生方から、乗り越えるべき核心的な批判をいただきました。私の力量でそれら批判をきちんと受けとめられたのかどうか不安でしたが、本学会賞を受賞できたことで大いに励みになるとともに、学会メンバーのみなさま・研究者仲間・査読者の先生方へ、賜った学恩を返礼する機会にも相成りました。

これら中体連3部作を基軸にした2度目の部活研究が私の第二打席になります。書籍化したいなどとは思っていますが、上梓できるとしても、もう少し時間はかかりそうです。やはり「10年+α」で一仕事になるのですかね。

残りの研究者人生で、次は第三打席に立てるのか、最後の第四打席にも挑めるのか、はたまたいつまで部活研究をやり続けるのか。体育社会学の未来を切り開く研究に邁進したいです。



中澤会員（左）と松尾会長（石坂会員提供）

## ＜学生研究奨励賞受賞者の声＞

### 学生研究奨励賞を受賞して

八木一弥（立教大学大学院スポーツウェルネス学研究科博士課程後期課程2年）

#### 対象研究

「野球統制令前後の少年野球の成立と野球観の変容に関する研究  
：雑誌『野球界』の分析を通して」

この度、日本体育社会学会第3回大会において学生研究奨励賞に選出いただき、大変光栄に思っております。日頃よりご指導を賜っております松尾哲矢先生、様々な視点からご助言をしてくださる立教大学の先生方、さらには松尾研究室の大学院生の皆様、その他多くの方々にお力添えを頂きながら、本研究を進めることができております。改めまして、この場をお借りして御礼申し上げます。

本研究（研究題目「野球統制令前後の少年野球の成立と野球観の変容に関する研究：雑誌『野球界』の分析を通して」）は、大正期から昭和期にかけて爆発的に広まっていったとされる少年野球（小学生の野球）の当時の状況に着目し、少年野球文化の形成の一端に迫ろうとしたものです。

当時の野球界では、小学生の野球から大学生の野球までの全てのカテゴリーで、学生の本分から逸脱するほどの担い手や関係者たちの過熱化が問題視されており、1932年に文部省（現文科省）による「野球統制令」が発令されるほどシリアスな問題でありました。本研究においては、少年野球の現場に焦点を当て、雑誌『野球界』を中心に資料分析を行った結果、指導者や保護者などの子どもを取り巻く大人たちが過熱し、「少年野球は大人の娯楽物ではない」などと痛烈に批判されるような状況にまでなっていたことが明らかになりました。

また、上述した状況下において、少年野球の〈場〉では大人と子どもという特徴的な関係構造を基調としながら活動が展開されており、子どもたちの自発性や自由な活動が抑制されていた可能性も示唆されました。そして、当時の野球の中で重要視されていた教育的価値、すなわち「共同一致」の精神が、その活動のベースとして子どもたちの活動を抑制する役割を果たしてきた可能性も推察されました。以上のことからこの期においては、大人が子どもたちの活動のあり方を方向づけていくという形で、少年野球における野球観が形成、および変容していった可能性が示唆されました。

今回の受賞は、今後の研究の発展への期待を込めて選んでいただいたものであると受け止めております。今後より一層、研究に精進して参ります。引き続きご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



八木会員（左）と松尾会長（石坂会員提供）

## <日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会スケジュール>

テーマ：今改めて問う、身体科学と文化の価値―次世代を切り拓く未来創造―  
詳しくはHPをご覧ください。<https://pub.confita.atlas.jp/ja/event/jspehss75>

### 1. 大会日程

2025年8月27日（水）～8月29日（金）

開催形式：対面式

### 2. 開催会場

日本体育大学世田谷キャンパス（〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1）

### 3. 大会スケジュール

◇大会1日目（8月27日（水）） オープニングセレモニー／総会／表彰式／専門領域別企画（キーノートレクチャー等）／本部企画シンポジウム（1）

◇大会2日目（8月28日（木）） テーマ別研究発表並びにテーマ別シンポジウム／本部企画シンポジウム（2）

◇大会3日目（8月29日（金）） 専門領域別研究発表・企画・諸会議

### 4. 体育社会学専門領域プログラム

<8月27日（水）1日目>

体育経営管理・体育社会学シンポジウム

日時：8月27日（水）9：40～11：40

会場：メインアリーナ（奥側）（スポーツ棟2階）

テーマ：部活動地域展開後の学校教育・体育を再考する―レーゾンデートルと事業構造―

コーディネーター：清水紀宏（筑波大学）

シンポジスト：

本田由紀氏（東京大学）

「これからの学校像」からみた学校教育／体育の再編

松田恵示氏（神戸親和大学/立教大学）

学校体育のレーゾンデートルを「再び」問う

野崎武司氏（香川大学名誉教授）

部活動地域展開がもたらす保健体育教師へのインパクト

<8月28日（木）2日目>

12:20～13:20 専門領域理事会

<8月29日（金）3日目>

9:00～16:25 体育社会学専門領域口頭発表

13:00～13:30 専門領域総会

### 5. 体育社会学専門領域 発表プログラム（会場は、すべて「1201」となります）

口頭発表① 座長：渡辺 泰弘（広島経済大学）

9：00 ～ 9：25

乾 順紀（奈良県立奈良商工高等学校）

日本語版フィジカルリテラシー評価尺度とその関連項目の検討

9：30 ～ 9：55

高部 厳輝（明治大学大学院教養デザイン研究科）

スタジアムの公共性をめぐるポリティクス ―クリーブランド市のゲートウェイ・プロジェクト―

口頭発表② 座長：大勝 志津穂（椋山女学園大学）

10：10 ～ 10：35

劉 曉宇（明治大学大学院）

1970 年代の性教育論とウーマン・リブ運動 ―純潔教育から性教育へ―

10：40 ～ 11：05

村下 慣一（立命館大学大学院社会学研究科）

エリアス学派スポーツ社会学に関する批判的考察 ―方法論的課題としての「非西欧」の描き方―

口頭発表③ 座長：谷口 勇一（大分大学）

11：20 ～ 11：45

中澤 篤史（早稲田大学）

アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究（3）―テキサス州でのフィールドワークをもとに―

11：50 ～ 12：15

東原 文郎（帝京大学）

アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究（4）―ミシガン州公立校の事例分析―

口頭発表④ 座長：下竹 亮志（筑波大学）

13：50 ～ 14：15

種谷 大輝（立教大学）

中学校運動部における補欠部員のアンビバレンスに関する実証的研究 ―指導者の補欠部員への指導に着目して―

14：20 ～ 14：45

杓掛 哲平（立教大学）

中学校における武道必修化がもたらす剣道の文化的変容に関する研究 ―授業における「気」の指導をめぐって―

口頭発表⑤ 座長：白石 翔（富山大学）

15：00～15：25

千葉 直樹（中京大学）

日本バスケットボール界へのアフリカ出身留学生の移住に関する研究 ―アフリカ出身留学生斡旋企業の事業内容に着目して―

15：30～15：55

楊 橋宇（順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科）

インターネット上におけるスポーツニュースにみたナショナリズムに関する検討 ―2024 年パリオリンピックにおけるバスケットボール日本代表チームの記事を事例にして―

16：00～16：25

佐藤 慈（明治大学大学院）

現代におけるメディア・スポーツのリアリティ ―原像と複製、体験と情報の反転―

## 6. 発表の形式について

- ・今大会における本領域の発表数は、口頭発表 11 演題です。
- ・口頭発表は 1 演題あたり 25 分間（発表 15 分間、質疑応答 10 分間）です。
- ・詳細につきましては第 75 回大会プログラムをご参照ください。



## ＜『年報体育社会学』編集委員会より＞

まず、ご挨拶をさせていただきます。2025年6月23日（日）の本学会総会（於：東北大学）での議を経て、新編集委員長に就任いたしました大分大学の谷口勇一と申します。2年間、「年報 体育社会学」の刊行等の業務を担当させていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

「年報 体育社会学」に関しましては、写真のとおり、第6号までが刊行されております（第1号から青、ピンク、黄緑、黄、薄紫、そしてまた青、ということは、第7号はピンク？）。表紙色の変遷はさておき、第6号までに収録された論考のすべてが「本学会の知」でありますこと、紛れもない事実であります。以後もなお、学会員の英知を収録し続け、国内の学会内外および海外に対しても、わが国における体育社会学の知を発信すべく、編集委員全員が一致団結して鋭意関わってまいる所存です。数多くの方々に、「体育社会学なる学問を身近に感じていただける」学会誌をめざしていければとも思っております。



さて、インフォメーションです。「年報 体育社会学」編集委員会では、現在第7号（2026年4月刊行）の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が2026（令和8）年1月末までに論文審査を終えて採択されれば第7号への掲載となりますが、1月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行（第8号）を待たずにJ-stageへ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえるよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様は、是非とも「年報 体育社会学」へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けておりますので、何卒よろしくお願いいたします。詳細は、「投稿に関わる諸規程等一覧」をご覧ください。

[https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport\\_regulations\\_20230625.pdf](https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport_regulations_20230625.pdf)

「年報 体育社会学」J-STAGEはこちらからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>



## <事務局より>

日本体育社会学会第3回大会が無事終了し、2023-24年度の事務局体制は任期満了を迎え、新たな事務局体制が発足しました。学会の新たな取り組みである「オンラインレクチャーシリーズ」が開設され、菊幸一先生（国士舘大学）によるご講演には、多くの方々にご参加いただきました。2025年8月には、日本体育大学において日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会が開催されます。学会の充実に向けて、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

1. 会員動向：日本体育社会学会（体育社会学専門領域）の会員数は、2025年7月30日現在363名（名誉会員は24名）です。
2. 会員情報：変更がありましたら、日本体育・スポーツ・健康学会（本会）のシステムを更新していただければ幸いです（但し、本会に入会されていない「日本体育社会学会のみ」の会員におかれましては、メールにて事務局へお知らせください）。

### 3. 新会員制度と会員募集について

2025年1月1日から新会員制度が導入され、日本体育・スポーツ・健康学会に所属されていない方でも、理事会の承認を得て会員（正会員、学生会員）になることができます。会費は、日本体育・スポーツ・健康学会所属の正会員は年額3,000円、それ以外の正会員は5,000円、学生会員は3,000円となります。名誉会員からは徴収いたしません。

入会方法につきましては学会ホームページ「学会（専門領域）について」の「入会のご案内」をご覧ください。お近くの研究者の方、指導院生などに周知いただければ幸いです。

### 4. 『年報 体育社会学』の販売について

2025年4月に『年報 体育社会学』第6号が刊行されています。学会誌の送付は前年度の会費納入に対して行われていますので、新規入会の方、複数冊が必要な方などは杏林書院さんのサイトから購入してください。第5号より販売を行っています。大学図書館などの所蔵として、定期購入をご検討・ご依頼いただければ幸いです。

<https://www.kyorin-shoin.co.jp/book/b10134951.html>

### 5. 事務局の連絡先

事務局のメールアドレスは以下の通りです。 [jimukyoku@jssspe.org](mailto:jimukyoku@jssspe.org)

## ○理事会議事録

### 2025年度 日本体育社会学会 第1回理事会 議事録

期日：2025年5月26日（月）～5月30日（金）

場所：メール審議

議事録：石坂事務局長

新会員制度による入会申請（正会員1名、学生会員3名）について審議し、入会が承認された。

### 2025年度 日本体育社会学会 第2回理事会 議事録

期日：2025年6月19日（木）18時30分～20時20分

場所：Zoom オンライン

出席者：松尾哲矢（会長）、高峰修（理事長）

稲葉慎太郎、大沼義彦、岡安功、甲斐健人、神野賢治、北村尚浩、笹生心太、白石翔、高尾将幸、高橋豪仁、千葉直樹、中澤篤史、藤井雅人、前田博子、松田恵示（以上理事、敬称略、五十音順） 有山篤利、宮本幸子（以上監事、敬称略、五十音順）

石坂友司（事務局長）、石澤伸弘（事務局次長）、水上博司（事務局次長）、工藤康宏（会計担当）（敬称略）

欠席者：秋吉遼子、浅沼道成、伊藤克広、清水諭、長ヶ原誠、彦次佳、依田充代（以上理事、敬称略、五十音順）

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

#### <報告事項>

##### 1. 委員会報告

2025 年度活動計画に関して、4 月以降の各委員会からの追加事項が高峰理事長より報告された。千葉研究委員長より、学会大会で行われるシンポジウムの補足説明がなされた。学会大会委員会の活動報告に大会開催業務の整理と助言を追記することが高峰理事長より説明された。

##### 2. 日本体育・スポーツ・健康学会のスケジュールについて

第 75 回日本体育・スポーツ・健康学会のスケジュールが確認され、専門領域の一般発表は 11 演題で行われることが高峰理事長より報告された。

##### 3. テキスト出版プロジェクト報告

当初 2025 年 3 月を予定していたテキスト出版が遅れていることについて、松田委員長より原稿集まりの遅れに加え、出版社の対応によって大幅な遅れが出ていること、出版社からはその遅れに対するお詫び状が届いていることが報告された。現在は初校が戻り始めており 8 月の刊行を目指すことが説明された。また、松尾会長より補足説明と執筆者に対するお詫びが述べられた。なお本件は議事進行の都合上、最初に報告された。

##### 4. 第 3 回大会進捗状況

第 3 回大会の準備の進捗状況について、甲斐大会実行委員長より報告がなされた。大学生協改修に伴い、情報交換会を仙台駅前の会場に移して実施するため、情報交換会の開始時刻を 18 時から 18 時 30 分に変更したいとの申し出がなされた。なお、本報告は議事進行の都合から最後に行われた。

その他

特になし。

#### <審議事項>

##### 1. 2024 年度決算報告

工藤会計担当より、2024 年度決算報告について説明があり、3 月の理事会から変動がなかったことが報告された。続けて有山監事より監査報告がなされた。特に異議などなく承認された。

##### 2. 2025 年度補正予算（案）

工藤会計担当より、2025 年度補正予算案について説明がなされた。学会賞選考委員会の審議により学会賞の副賞が 3 万円と決まったことを受け、追加計上したことが説明された。松尾会長より収入は日本体育・スポーツ・健康学会から来る補助金と会費収入を主として運営しているため、赤字が大きくなっていること、学会独自の取り組みをして魅力を高めながら会費値上げも視野に入れて検討を進める必要があることが提案された。補正予算案は特に異議などなく承認された。

##### 3. 会則の改定について

新会員制度が発足したことを受け、除名規定を新たに盛り込むこと、事務局交代により事務局長の所在地の変更が必要になることが高峰理事長から説明された。会則変更は異議などなく承認された。なお、本会の所在地

は、会則第2条「本会の所在地は、附則に定める事務局（会計）の所在地とする。」に基づき、以下の通りとすることが確認された。

事務局（会計）所在地 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学健康・スポーツ科学部 GA505 研究室 会計担当 工藤康宏

#### 4. 諸規定の改訂について

学会賞選考委員会から提案された 1)日本体育社会学会賞規程、2)日本体育社会学会賞選考規程については、過去に選考年度を4年度にしていたものが、新学会設立時に過去の規程を参照したためか3年度に戻っていたことから、4年度に修正されることが高峰理事長から報告された。続けて石坂事務局長より、同委員会より提案された 3)日本体育社会学会賞の推薦および選考に係わる申し合わせの改訂について、過去に受賞した論文は次の選考対象から外すこと、この後に審議される編集委員会の投稿規定の改訂に伴って、文言の修正が必要になったことが説明された。

続けて編集委員会から提案された 4)編集委員会諸規程（①「年報 体育社会学」投稿規程、②投稿の手引き、③投稿倫理規程、④論文審査に関する申し合わせ、⑤編集委員会運営細則、⑥投稿論文の受付から発行までの流れについて）の改訂、及び⑦『年報 体育社会学』転載規程の新設について、石坂事務局長から説明された。改訂の趣旨は投稿ジャンルを現在の『年報 体育社会学』の内容にあわせて修正したこと、各規程の文言を現状に合わせて修正したことが報告された。笹生理事より文字数の2万字がスペースを含むのかわかりづらいとの指摘があり、藤井編集委員長より40字×30行の設定で、スペースを含む文字数で2万字が計算されるとの返答がなされた。ただ、参考文献等のアルファベットは半角で表記されるため、実質は2万字を超え出る可能性があること、投稿論文のほとんどが文字数超過をして投稿されてきており、編集委員会の第一次チェックで修正を依頼していることから、次期委員会では優先的にチェックを行って欲しいと依頼がなされた。

転載規程の新設については、大学リポジトリ等への転載申請に対する規程がなかったため、今回の新設となったことが事務局長より説明され、あわせて「転載許可願」のフォーマットについても整備された。なお、資料にピリオドが欠落した箇所があったため、修正されることが確認された。以上の諸規程の改訂については異議などなく承認された。

国際交流委員会の新設に伴う 5)委員会規程の改訂、6)国際交流委員会運営細則の新設については、高峰理事長より、国際交流委員会の新設そのものが理事会、総会で承認を得る必要があるため、新たに理事会議事に追加して審議したいとの提案がなされた。国際交流委員会の新設、並びに委員会規程の改訂、国際交流委員会運営細則の新設については、特に異議などなく承認された。

#### 5. 学会賞の選考について

高橋学会賞選考委員長より、2024年度学会賞の選考結果が報告され、異議などなく承認された。松尾会長より、学会賞受賞者が会議に出席している場合は審議にかかわらないのが通例であるため、今後の審議においては留意した方がよいとの意見が述べられた。

#### 6. 学生研究奨励賞の選考について

甲斐学生研究奨励賞選考委員長より、2025年度学生研究奨励賞の選考結果（選考論文数6編）が報告され、異議などなく承認された。なお、学生研究奨励賞においても学会賞と同様に共同発表者が参加しているため、同様の配慮が必要であることが高峰理事長より述べられた。選考報告書に誤字があることが指摘され、修正されることが確認された。

#### 7. リポジトリ転載承認について

『年報 体育社会学』転載規程が新設されたことを受け、明治大学図書館より申請のあった、『年報 体育社会学』掲載論文の大学リポジトリへの転載申請が審議された。石坂事務局長より、提供するPDFの著者最終稿、出版社版の違いについて説明され、J-Stageに搭載されている出版社版を提供することとし、出典を明記することなどを条件として転載を承認したいとの説明がなされた。異議などなく承認された。

#### 8. 日本体育社会学会第4回大会開催校について

第4回大会の開催校を5月31日まで会員に募集したが立候補はなかったため、執行部から個別に打診した結果、中澤理事の早稲田大学東伏見キャンパスで引き受け可能との返事が得られた。会場校の都合で第4回大会は2026年6月27日・28日に開催することが提案され、異議などなく承認された。続いて中澤理事より挨拶がなされた。

#### 9. 2025年度体育社会学オンラインレクチャーシリーズの開設について

高峰理事長より、次期執行部で体育社会学の基礎力作りとしてオンラインレクチャーシリーズを実施することが提案説明された。また、オンデマンド視聴も可として、学会内外に広く情報を提供すること、運営は基本的に執行部が担い、若手研究者に手伝ってもらうなどして進めて行くことが説明された。第4回以降は学会員以外の登壇者も計画しているため、次期理事会に事業計画として提案し、必要な経費について補正予算を組むことなどが提案された。松尾会長より、学会事業の内容充実として効果があり、参加者に学会の入会勧誘を行うことなどが提案された。また、執行部の負担軽減を図るとともに、他の理事の意見などを聴取して進めて行くことが提案された。2025年度体育社会学オンラインレクチャーシリーズの開設については異議などなく承認された。

#### 10. その他

##### ①学会大会発表資格について

第4回大会の一般発表において、共同発表者として学会員外の会員が申し込みをしている演題があることについて、石坂事務局長より説明があり、大会要項では参加費を支払ってもらうことと、理事会の承認があれば報告可能であるため、理事会承認を得たいとの提案がなされた。異議などなく承認された。あわせて石坂事務局長より、日本体育・スポーツ・健康学会の会費引き落としが7月であるのに対し、本学会大会の開催が6月で、会費支払いのチェックができないことから参加資格の確認に難しさが生じていること、また、大会口座の開設ができず、一般会計の口座を利用している状況について説明された。工藤会計担当より、大会参加費については、早割を申し込んでおきながら期間内に納入されないケース、重複納入をするケースなどがあり混乱が生じているため、複数の会費設定には難しさがあるという問題提起がなされた。石坂事務局長より、早割の設定については開催校が情報交換会の参加者をあらかじめ把握する上で必要な仕組みのため、廃止はできないのではないかと意見が出された。

最後に、松尾会長よりこれまでの理事会活動に対する謝意が述べられるとともに、新旧理事会で引き継ぎの要点整理がなされるように要請がなされた。続けて有山監事、宮本監事より挨拶が行われた。高峰理事長から謝意が述べられ、閉会された。次回理事会は新旧理事会として第3回大会開催時の2025年6月21日（土）11時からハイブリッド形式で開催されることが確認された。

#### 2025年度 日本体育社会学会 新旧理事会 議事録

期日：2025年6月21日（土）11時～11時50分

場所：東北大学川内南キャンパス 文科系総合講義棟2階 第2小講義室（経済学部）212／Zoom オンライン

出席者（現理事）：松尾哲矢（会長）、高峰修（理事長、新会長）

秋吉遼子、浅沼道成、稲葉慎太郎、大沼義彦（新理事）、岡安功、甲斐健人（新理事）、神野賢治、笹生心太（新理事）、白石翔（新理事）、千葉直樹、中澤篤史（新理事）、彦次佳、藤井雅人、前田博子（新監事）、依田充代（新理事）（以上現理事、敬称略、五十音順）有山篤利（新監事）、宮本幸子（新理事）

（以上現監事、敬称略、五十音順）石坂友司（事務局長、新理事）、石澤伸弘（事務局次長、新理事）、水上博司（事務局次長、新理事長）（以上現事務局、敬称略、五十音順）（新理事）：伊藤央二、大勝志津穂、原祐一、下竹亮志、谷口勇一、常行泰子、中山健、中山健二郎、村本宗太郎、渡辺泰弘（以上新理事、敬称略、五十音順）

オンライン出席者（現理事）：北村尚浩、松田恵示（以上現理事、敬称略、五十音順）（新理事）：工藤康宏（現会計担当）、高橋義雄、渡正（以上新理事、敬称略）

欠席者：（現理事）：伊藤克広、清水諭（新副会長）、高尾将幸、高橋豪仁（新理事）、長ヶ原誠（以上現理事、敬称略、五十音順）

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

#### <報告事項>

##### 1. 2025 年度事業計画について

現委員会によって作成された 2025 年度活動計画が高峰理事長より報告された。大沼理事より年 2 回の総会の性格の違いはあるのかと質問が出され、石坂事務局長より、会則第 13 条に「総会は少なくとも年 1 回、本学会大会で開き、当日の出席会員をもって構成する」とあり、日本体育社会学会大会時の総会を第 1 回、専門領域の会員が参加する日本体育・スポーツ・健康学会大会時の総会を第 2 回総会として開催していることが説明された。また、高峰理事長より、補正予算の審議も必要となることから年 2 回の開催が望ましいとの説明がなされた。

##### 2. 2025 年度補正予算（案）について

工藤会計担当より、2025 年度補正予算案について説明がなされた。収支バランスは改善に向かっているが、依然として赤字となっていて、支出を抑えながら収入を増やす必要があることが説明された。松尾会長より、本会が日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域を兼ねていて、収入が比較的安価な会費、補助金を主とする構造的課題があること、会員数を増加させるとともに、会費値上げなどによる収入増を検討することも選択肢になること、事業内容の充実をはかり魅力ある学会運営を行うことなどが説明・提案された。

##### 3. 新旧委員会の引き継ぎ事項について

各委員会より提出された引き継ぎ事項について、各委員会委員長より説明がなされた。依田学会大会委員長より、第 4 回大会の開催に向けて大会運営の手引きの作成を検討していく必要があることが補足説明された。

##### 4. テキスト出版プロジェクト報告

当初 2025 年 3 月刊行を予定していたテキスト出版が遅れていることについて松田委員長より、原稿集まりの遅れに加え、出版社の対応が遅れたことによる大幅な遅れが出ていること、出版社からはその遅れに対するお詫び状が届いていることが報告された。現在は初校が戻り始めており 8 月の刊行を目指すことが説明された。また、松尾会長より補足説明と執筆者に対するお詫びが述べられた。なお本件は議事進行の都合上、最初に報告された。

##### 5. その他

特になし。

#### <審議事項>

##### 1. 2025-26 年度役員・委員会構成について

高峰理事長（新会長）より、役員（会長、副会長、理事長（会長推薦理事 2 名を含む）、事務局長、理事、監事）、事務局員、及び各委員会の構成（委員長、副委員長、専門委員）について提案がなされ、特に異議などなく承認された。なお、学会大会委員長は後日決定されることとされた。また、委員の氏名、所属に誤記があったことから修正された。

##### 2. 国際交流委員会の新設について

2025 年度事業計画が国際交流委員会の新設を前提に作成されていたことから、議題を追加して、国際交流委員会の新設について審議された。高峰理事長より国際交流委員会新設に至る経緯が述べられるとともに、委員会規程に国際交流委員会の条項を追加すること、事業計画が説明され、異議などなく承認された。なお、国際交流委員会の新設は総会に上程されて審議されることとされた。

##### 3. その他

高峰理事長より、2025 年度第 2 回理事会で承認された 2024 年度活動報告について、学会賞選考委員候補者推薦委員会の活動を追記すること、テキスト出版の刊行見込みを 2025 年 8 月に修正することの 2 点が提案され、異議などなく承認された。最後に有山監事、宮本監事より 2 年間の活動に対する振り返りがなされるとともに、高峰新会長より就任の挨拶が行われ、閉会された。

## 2025 年度 日本体育社会学会 第 1 回総会 議事録

期日：2025 年 6 月 22 日（日）13:00～14:00

場所：東北大学川内南キャンパス 文科系総合講義棟 2 階 203 教室

出席者数：50 名

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

### <議題>

#### 1. 議長、議事録署名人の選出

会員から立候補がなかったため、事務局提案により、伊藤恵造会員が議長に選出された。また、議事録署名人は会員から立候補がなかったため、事務局提案により、大勝志津穂会員、小坂美保会員が選出された。

#### 2. 2024 年度活動報告

理事長から、2024 年度の各委員会活動報告について、2024 年度第 2 回総会以降の活動を中心に報告がなされた。異議などなく、承認可決された。

#### 3. 2024 年度第 2 回大会決算報告

事務局長より 2024 年度第 2 回大会決算について報告がなされた。続いて宮本監事より、会計監査の結果、会計は適切に処理されていることが報告された。異議などなく、承認可決された。

#### 4. 2024 年度決算報告

事務局長より 2024 年度決算について報告がなされた。資料に誤記があったため修正された（評議員選挙を理事選挙に修正）。続いて宮本監事より、会計監査の結果、会計は適切に処理されていることが報告された。異議などなく、承認可決された。

#### 5. 2025 年度活動計画（案）

理事長より 2025 年度活動計画について提案がなされた。なお、国際交流委員会の活動報告については、議題 10 とかわるため審議を保留とした。異議などなく、承認可決された。

#### 6. 2025 年度予算（案）

事務局長より 2025 年度予算案について提案がなされた。2024 年度第 6 回理事会で予算案を審議承認したが、追加経費（学会賞副賞）必要となったため、2025 年度第 2 回理事会において補正予算案が審議承認されたことが説明された。異議などなく、承認可決された。

#### 7. 2025-26 役員選挙の結果について

理事長より、2025-26 役員選挙の結果について報告がなされた。続いて宮本幸子選挙管理委員会副委員長より選挙の過程に問題などなかったことが報告された。異議などなく、承認可決された。

#### 8. 2025-26 会長及び理事・役員、委員について

理事長より、役員選挙の結果を踏まえて、会長に高峰修会員、副会長に清水諭会員、理事長に水上博司会員、事務局長に常行泰子会員、監事に有山篤利会員、前田博子会員、会長推薦理事に高橋豪仁会員、宮本幸子会員をあてる人事案が提案された。あわせて事務局員、委員会委員、日本体育・スポーツ・健康学会委員が報告され



た。なお、国際交流委員会委員については、議題 10 とかかわるため審議を保留とした。異議などなく、承認可決された。

#### 9. 会則の変更について

事務局長より除名規定を新たに盛り込むこと、事務局交代により事務局長の所在地の変更が必要になることが説明された。会則第 2 条「本会の所在地は、附則に定める事務局（会計）の所在地とする。」に基づき、事務局（会計）所在地を「〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学健康・スポーツ科学部 GA505 研究室 会計担当 工藤康宏」とすることが確認された。異議などなく、承認可決された。

#### 10. 国際交流委員会の承認について

理事長より国際交流委員会の新設と委員会規程に国際交流委員会の条文を追加すること、国際交流委員会運営細則（新設）が提案された。異議などなく、議題 5 の国際交流委員会活動計画、及び議題 8 の国際交流委員会委員の人選とあわせて承認可決された。

#### 11. 第 4 回学会大会開催校の決定について

理事長より、第 4 回大会の開催校を早稲田大学にする提案が示された。異議などなく、承認可決された。その後、主幹校となる中澤篤史会員より挨拶がなされ、早稲田大学東伏見キャンパスで 2026 年 6 月 27 日・28 日に開催する予定が述べられた。

#### 12. 「年報 体育社会学」投稿規程の改定について

事務局長より、編集委員会から提案された投稿規程の改訂について説明がなされた。異議などなく、承認可決された。

#### 13. 2025 年度体育社会学オンラインレクチャーシリーズの開設について

理事長より、新執行部を中心にして「2025 年度体育社会学オンラインレクチャーシリーズ」を開設すること、会員外への謝金については次回総会で補正予算の審議をすることが説明された。異議などなく、承認可決された。

#### 14. その他

特になし。

〈報告〉

##### 1. 諸規程の改訂について

事務局長より、理事会で審議決定された 1) 日本体育社会学会賞規程（改訂）、2) 日本体育社会学会賞選考規程（改訂）、3) 日本体育社会学会賞の推薦および選考に係わる申し合わせ（改訂）、4) 編集委員会諸規程（改訂、⑦『年報 体育社会学』転載規程のみ新設）について説明がなされた。

##### 2. 第 75 回日本体育・スポーツ・健康学会について

事務局長より、第 75 回日本体育・スポーツ・健康学会大会のスケジュールについて報告がなされた。

##### 3. 学会賞選考結果発表

千葉直樹学会賞選考委員会副委員長より、学会賞として中澤篤史会員（早稲田大学）による「全国中学校体育大会の成立過程：中学校体育連盟は教育的平等主義と競技的選抜主義の相克をどう意味づけたのか」（『体育学研究』第 67 巻、2022 年、pp.501-517）が選考されたことが報告された。

##### 4. 学生研究奨励賞選考結果発表

甲斐健人学生研究奨励賞選考委員長より、学生研究奨励賞として、八木一弥会員（立教大学大学院）による「野球統制令前後の少年野球の成立と野球観の変容に関する研究—雑誌『野球界』の分析を通して—」が選考されたことが報告された。

5. テキスト出版プロジェクトについて

松尾会長よりテキスト出版プロジェクトの進捗に遅れが出ている経緯について説明がなされ、8月の刊行を目指すことが報告された。

6. その他

特になし

議長より、閉会の挨拶がなされた。

以上 議事録署名人 大勝志津穂 小坂美保

## ＜あとがき＞

新広報委員長を拝命しました、東京女子体育大学の笹生です。頼りない委員長ではありますが、村本宗太郎会員（立教大学）、平賀慧会員（東海大学）という2人の有望な若手研究者に支えていただきながら、任務を全うしてまいりたいと思います。これから2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

本学会は今、「体育社会学オンラインレクチャーシリーズ」の開始、『体育社会学の課題と展望』（大修館書店）の刊行と、学会の外に向けて発信する機会が増えてきています。ニュースレターもこうした機運に合わせ、学会内外で多くのコミュニケーションを生み出せるような新たな企画を考えていきたいと思っています。

さて、体育やスポーツと直接関係する話ではなく恐縮なのですが、私は今、7月の参議院選挙において外国人排斥を志向し、多様な性のあり方を否定する政党が躍進したことにとっても不安を感じています。この政党は終末期医療の自己負担化も訴えています。この選挙期間中、偶然にも私の身内が終末期医療を受けており、他人事とは思えませんでした。金銭負担を気にせず身内に穏やかな最期を迎えさせてやりたいというささやかな願いすら否定されることに対し、恐怖を覚えました。

私の大学院生時代の指導教員である内海和雄先生（一橋大学および広島経済大学名誉教授）は、そもそも社会が平和でない限りスポーツは成り立たないと主張していました。この主張は国際平和の文脈で発せられていたと記憶していますが、国内に住む多様な人々の命や安全が脅かされないという意味での平和と読み替えても問題ないでしょう。当時の私は、スポーツと平和の問題について深刻に受け止めていませんでしたが、このような社会情勢の今、あの時の指導教員の言葉の意味を痛いほど実感しています。

我々、体育・スポーツ社会学者は、様々な国籍や出自の選手が同じユニフォームを着てスポーツ競技を行うことの素晴らしさ、様々な障害を持つパラアスリートが自らの可能性の限界に挑戦する姿の凄み、性に関する偏見に挑戦するアスリートたちの尊さを誰よりも知っています。そんな我々だからこそ、今の社会に対して発信できることがあるはず。会長のご挨拶にもあるように、本学会の目的は「体育とスポーツに関する社会学的研究を行い、体育とスポーツの研究と実践に寄与すること」です。体育の指導現場のような「実践」のみならず、体育・スポーツの存立基盤である平和の実現という「実践」にもどう貢献できるか、真剣に考えるべき時が来ているように思います。

ご案内のとおり、2025年8月27日（水）～8月29日（金）の3日間、日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会が開催されます。昨年度の大会は、台風の影響で直接お会いできない方も多くいました。今年度こそは、皆様と直接お会いし、大いに議論を交わしたいと思います。猛暑に負けず、日本体育大学で元気にお会いしましょう。

（東京女子体育大学・笹生心太）